

2(2) その他, 特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果, 世界的位置付けなど。(評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容)

特筆すべき教育活動

1. 上記の 2007 年 10 月より開始した「サービス・イノベーション・マネージャー人材育成プログラム」では、サービス部門において新たな生産性を創造し、サービスの質を管理できる人材を育てることを目標に各種の講義と演習を開講し、41 名の学生が受講した。
2. 上記の 2007 年 10 月より開始した「環境フロンティア国際プログラム」では、文理の枠にとらわれない発想力および文理を融合した知識と経験を身につけ、環境分野において実践的に活躍できる人材を養成することを目標に各種の講義を開講し、本研究科から 4 名の学生が受講した。
3. 地域イノベーション研究センターでは、2005 年度から「長期プロジェクト型インターンシップ」(地域企業と連携して長期の就業体験を提供する)、2006 年度から「プロジェクト型教育研究プログラム」(経済社会の具体的な課題の解決策を立案するなかで教育を行う)などのユニークな教育方法を実施し、成果をあげている。

特筆すべき研究活動

1. 本研究科は、本学文系部局では唯一(経済学研究科として 2 回目)の寄附講座として株式会社七十七銀行「地域経済金融論(七十七銀行)寄附講座」を受け入れたが、4 月より新規採用教員 2 名によって、経済活動の地域的集中とそこでの地域金融の役割に関する研究教育が開始された。
2. 2006 年 9 月以来 2 年間にわたって(独)中小企業基盤整備機構より「中小企業政策(中小機構)寄附講座」を受入れ、中小企業政策に関する教育研究を実施した。経済学研究科として第 1 回目の受入であり、地域イノベーション研究センターと共同で中小企業政策に関する調査研究およびシンポジウム・セミナー等も開催した。
3. 「サービス・イノベーション人材育成プログラム」(佃・吉田)との関連で下記の国際コンファレンスを開催した。会議名: The 2nd International Conference on Innovation and Customer Satisfaction in Service Industries、日時: 2008 年 12 月 19 日、講演数: 10 件、外国招待講演者 5 名(アメリカ、中国、韓国、フィンランドなど)。
4. 経済史・経営史研究分野(猿渡・鈴木・長谷部・小田中・菅原)の主催で 2 回の国際コンファレンスが開催された。第 1 回「アジアにおける国際銀行業: 19 世紀~20 世紀」(2008 年 9 月 27 日、講演数 3 件、外国招待後援者 3 名: イタリア・連合王国)、第 2 回「東アジア経済史・経営史の新潮流」(2009 年 1 月 17 日、講演数 4 件、外国招待者 2 名: 中国・韓国)。

特筆すべき社会貢献活動等

1. 地域イノベーション研究センターは、東北地域の経済産業が抱える重要課題について、学の成果と実業界の経験を交流して解決策を見いだすため、下記の産学シンポジウムを開催した。シンポジウム名: 「ものづくりだけで生き残れるか?」、日時: 2008 年 10 月 1 日、場所: 仙台国際センター、趣旨: 製造業のサービス化。
2. (独)中小企業基盤整備機構東北支部と連携して、学部授業を広く市民に開放する授業科目「東北地域の中小企業経営と地域活性化」を提供した(上半期「原油石油製品価格上昇に関する影響」、下半期「昨今の経済情勢への関心と影響について」)。
3. 各教員は、政府省庁や地方公共団体等の審議員や委員として、専門的立場から提言等を行っている。また、学会役員、法人や企業が企画した社内研修の講師及び高校への出前授業等、広く社会に貢献している。